学校番号	308

令和８年度　理科

教科	理科	科目	生物	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	生物（数研出版）						
副教材等	新課程　生物　学習ノート（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

生物学は非常に応用範囲の広い学問です。例えば、環境・農業・食糧・健康・医療など、社会や自身の生活に直結する分野の基礎となります。２年生で学習した生物基礎の知識を活かして、「生物の進化」、「生命現象と物質」、「遺伝情報の発現と発生」、「生物の環境応答」、「生態と環境」といった観点を広く浅く学ぶことで、生物とはどういう存在なのか、生物はどのように生きているのか、生物がどのように発展してきたのか、ということを理解するとともに、持続可能な社会を実現するために貢献できる人間になってほしい。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
各単元の専門用語を意味とともに広く浅く理解ができている。

【思考力、判断力、表現力等】
学び得た知識を用いて、生物現象を理論的に考察し、適する専門用語を用いて簡潔に説明することができる。
表やグラフから論理的に考察することができる。

【学びに向かう力、人間性等】
授業で学んだことを自ら復習し、次の授業につなげるよう主体的な学習ができる。
実験に対して自ら疑問を持って取り組み、得られた結果から自分なりの論理的な考察ができる。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	各単元の重要語句や原理、化学反応式等を理解し、知識として定着している。	細胞内や生体内で起きている現象や、生態系における生物間の関わり合いについて思考し、適切に判断を行い、表現できる。	生命を分子、細胞、個体、生態系など様々な階層レベルで関心を持ち、科学的な視点から探求する意欲・態度を身につけている。また、実験・観察といった探究活動において、実験器具を正しく扱い、得られた結果から科学的な視点で考察できる。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期前半	生物の進化	生物の進化	(a)：進化の過程を理解する。 (b)：進化のしくみを考察できる。 (c)：普段から知識の蓄積を主体的に行い、その知識を使って探究活動ができる。	定期考査 授業ノート	定期考査 ワーク	探究活動
1学期後半	生命現象と物質	細胞と分子 代謝	(a)：細胞の構造と細胞内での各化学反応を理解する。 (b)：細胞内の現象が一連のものとして繋がりがあることを思考できる。 (c)：普段から知識の蓄積を主体的に行い、その知識を使って探究活動ができる。また、実験器具を正しく使用し、考察することができる。	定期考査 授業ノート	定期考査 ワーク	探究活動
2学期前半	遺伝情報の発現と発生	遺伝情報の発現と発生	(a)：DNA の情報から生命現象がコントロールされていることを理解する。 (b)：基本知識を元にして DNA の塩基数の計算など考察をすることができる。遺伝子の発現調節を思考できる。発生過程を一連の流れとしてイメージできる。 (c)：普段から知識の蓄積を主体的に行い、その知識を使って探究活動ができる。	定期考査 授業ノート	定期考査 ワーク	探究活動
2学期後半	生物の環境応	動物の反応と行動	(a)：動物体内の各部位の名称を理解する。植物ホルモンの名称と働きを理解する。 (b)：基本知識を元に動物の反応を考察することができる。	定期考査 授業ノート	定期考査 ワーク	探究活動

		植物の環境応答	植物ホルモンと植物の反応を結びつけられる。 (c)：普段から知識の蓄積を主体的に行い、その知識を使って探究活動ができる。また、実験器具を正しく使用し、考察することができる。			
3学期	生態と環境	生物群集と生態系	(a)：生態系内に生息する生物どうしや非生物的環境との関係を理解する。 (b)：生物どうしが関わり合うことで、個体数や生態系内の環境がどのように変化していくかを思考できる。 (c)：普段から知識の蓄積を主体的に行い、その知識を使って探究活動ができる。また、自身の考察を他者へ伝えることができる。	定期考査 授業ノート	定期考査 ワーク	探究活動

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度